

# 広報のむら

野村地区まちづくり  
協議会  
亀山市野村三丁目 10-9  
☎ (82) -1449  
e-mail  
nomura1449@za.ztv.ne

## 三地区シニアが熱戦

### グラウンドゴルフ大会

体育部

三地区(野村・天神和賀・南部)交流グラウンドゴルフ大会を、6月4日(土)亀山公園芝生広場で開催しました。

当日は、80名を超える参加のもと、8ホールを2ゲームトータルで競い、同スコアが続出するなど、芝生広場いっばいに熱戦が繰り広げられました。なかにはご自身の組がわからなくなる人や、ボールが芝生を大きく通り越してしまう人など、ほほえましく和気あいあいとしたなかでプレーが行われました。ほんのりと心地よい汗とともに、楽しいひと時を過ごしていただけたのではと思っております。

参加者並びに開催関係者の皆さん、ありがとうございました。

- 成績
- 1位 山脇 博(南野)
  - 2位 北村 圭子(野村団地)
  - 3位 楠井 智久(南部)



## ナイターで

### 親子のふれあい!

青少年育成部

普段味わえないナイターの雰囲気のもと、親子・三世代交流を楽しく意気投合することをテーマに、6月25日(土)曇り夜空の中、西野公園野球場において球技大会を開催しました。

(参加者・児童100名、大人35名)

今年、男子でソフトボールの出来る小学生が少ないため、親子グラウンドゴルフに替えて行いましたが、楽しく行うことが出来ました。女子のキックベースボールは、お母さんチームと日頃の練習成果を出そうと、一生懸命に競技し得点を競い合いました。またドッチボールは小学生ルールにより、地区委員さんの指導で、幼児と低学年がコートに分かれ、ボールをぶついたり、ぶつけられたり、コートの中を走り回り、汗だくで楽しく過ごせられたと思います。幼児・小学生、父兄の皆さんそして監督・コーチ、各青少年育成部員の皆さん大変ご苦労様でした。



## 盆踊り大会

教育文化部

8月8日(月)、半世紀を超える歴史ある野村地区盆踊大会が、コミュニケーションセンター広場で盛大に開催されました。猛暑続きの中、当日は台風の影響で、時折心地よい風が吹く丁度いい盆踊日和でした。

会場の中央の櫓を中心に、三重に踊りの輪が広がりました。地域の皆様とのコミュニケーションの場として、気軽に参加できる盆踊大会で、今年も思い出に残る楽しい夏の一夜になりました。

(参加者・約350名余)

終了後、恒例の福引会が行われ、中学生の協力で手際よく予定通りに終了することが出来ました。



毎年、地元企業様の協賛を頂き、猛暑の中、大会運営に前日よりご協力を頂きました野村地区まちづくり協議会各部署の皆様方へ、お礼を申し上げます。

### ★ご協賛企業・個人(敬称略)

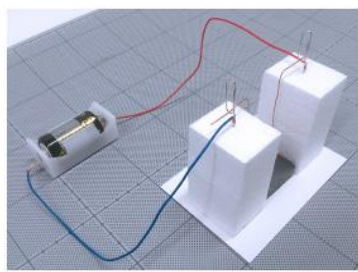
- さくや葬祭
- サークルK亀山野村店
- 鈴鹿スチール(株)
- レストラン コ・ピアン
- Yショップおかもと
- サクラギ建築(有)
- ウイリング(株)
- 広瀬土建(株)
- 菜の花動物病院
- 焼肉長治郎
- (有) 森水道
- 櫻井住建(株)
- 牧正吾
- 池村武人
- 櫻井麗子



## 夏休み科学教室

青少年育成部

小学生を対象に8月22日(月)、関西電力(株)亀山保線所様のお世話で「電気プランコ作り」をテーマに、今渡発電所から2名の講師を招き、44名の児童と親御さんら総勢55名が参加し、夏休み科学教室が開催されました。



初めに、「みんなの家に電気がどのような「来るか」をテーマにDVDと講話で学びました。参加者による自作メニューとして、銅線でコイル型に作成したブランコと乾電池1個・丸い磁石1個を使い、ブランコの両側にプラスチックを柱にして、金クリップを立て乾電池を接続し作成しました。ブランコが磁石の反発で振れ動けば成功です。

参加された皆さんは、講師指導のもと熱心に又丁寧にプランコ作りに取り組み、楽しい時間を過ごして頂くことが出来ました。又、手廻し発電機を用いて、普通の豆球とLED球を使って明かりを灯すエネルギー差をみる実験を行い、発電機を回転さす重さ、軽さの体験をしました。

この出前講座開催に対し、貴重な資料を持参してご協力頂きました関西電力の皆さんに心からお礼を申し上げます。



## 美浜原子力

### 発電所見学会

青少年育成部

8月26日(金)、関西電力様のご招待で、野村地区31名が、若狭の美しい海岸線にある美浜原発を見学しました。

3基の原子炉の内、1、2号機は設置40年を経過し、現在廃炉に向け手続き中、3号機は、再稼働に向け原子力規制委員会の厳格な安全審査を受けているところでした。

見学前、美浜原子力PRセンターで、原子力発電のしくみや地震・津波等に対する安全性向上対策の実施状況を、映像や模型により解説を受け、各ゲートで厳重に本人確認をして、いよいよ発電所構内を専用バスで巡行しました。

従業員は協力会社を加えて、総勢700人で、3号機の稼働に向けた準備作業を、誇りを持って精励していました。3号機の安全性確保は、東電福島第一原発の事故を踏まえ、①予備電源の確保、②浸水対策(完全密閉構造)、③冷却機能の確保(予備給水ポンプ)を柱にしているとの説明でした。

原子力の平和利用は、地球温暖化防止とベース電源の確保から、人類共通のテーマであり、福島の事故を二度と起こさない決意の下、優秀な原子力技術者の育成が計られる事を念じ、見学会を終了しました。

